

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年6月8日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	109	25	4	51	50	130
令 和 6 年	104	20	0	42	56	118
前 年 同 期 比	5	5	4	9	-6	12

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	16	14.7%	5	0	7	6	18
	後立山	20	18.3%	4	1	9	17	31
	その他	20	18.3%	0	0	15	8	23
計		56	51.4%	9	1	31	31	72
中央アルプス		9	8.3%	3	1	3	3	10
南アルプス		2	1.8%	0	1	1	0	2
八ヶ岳連峰		13	11.9%	3	0	8	3	14
その他の山岳		29	26.6%	10	1	8	13	32
計		109		25	4	51	50	130

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	39	35.8%	14	0	27	0	41
転 倒	20	18.3%	1	0	19	0	20
病 気	5	4.6%	2	0	0	3	5
道 迷 い	19	17.4%	0	0	0	31	31
落 石	1	0.9%	0	0	1	0	1
雪 崩	2	1.8%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	3	2.8%	0	0	0	4	4
不明・他	20	18.3%	7	4	3	11	25
計	109		25	4	51	50	130

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	1	0	0	3	4	26 26.0%	0	0	0	0	0	9 30.0%	4	35 26.9%
20代	0	0	1	9	10		0	0	1	4	5		15	
30代	3	1	3	5	12		0	0	2	2	4		16	
40代	4	1	8	3	16	41 41.0%	1	0	2	1	4	15 50.0%	20	56 43.1%
50代	6	0	9	10	25		0	0	8	3	11		36	
60代	5	1	8	6	20	33 33.0%	0	0	5	0	5	6 20.0%	25	39 30.0%
70以上	5	1	3	4	13		0	0	1	0	1		14	
計	24	4	32	40	100		1	0	19	10	30		130	
比 率	76.9%						23.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（6/2～6/8）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
6月5日	北アルプス 爺ヶ岳	女	56	無事救出	道迷い	5人パーティで爺ヶ岳から下山中、道に迷い、行動不能
		女	54	無事救出	道迷い	
		女	56	無事救出	道迷い	
		男	75	無事救出	道迷い	
		男	52	無事救出	道迷い	
6月6日	北アルプス 槍ヶ岳	男	確認中	死亡	不明	単独で槍ヶ岳に入山し、何らかの原因で、行動不能
6月6日	高妻山	男	68	死亡	滑落	単独で高妻山に入山し、何らかの原因で、滑落
6月8日	北アルプス 燕岳	男	61	負傷	転倒	5人パーティで燕岳に向けて登山中、転倒し、負傷

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、4件の山岳遭難が発生し、うち2件は死亡遭難でした。

死亡した遭難の2件はともに単独登山です。単独登山は、アクシデントがあった場合に1人で対処しなければならず、それに対応できる装備も1人で持って行く必要があります。登山中の判断は相談する仲間がいないので、すべて1人で判断する必要があります。携帯電話の通話エリア圏外であれば、通報はできません。単独登山を計画されている方は、必ず登山計画書の正確な記載と提出、家族や友人、職場などへの共有をお願いします。また、アクシデントに対応できる装備を必ず携行してください。

北アルプス爺ヶ岳で発生した道迷い遭難は、まだまだ標高の高い山域では残雪があり、雪渓で登山道が分かりにくく沢筋などを登山道と錯覚して迷い込んでいます。登山中は、漫然と歩くのではなく、「あれ？違うかな？」と思うことや、思った場合は一度立ち止まり、地図やコンパスで現在位置を確認しましょう。

単独登山や道迷い防止の強い味方として、登山地図アプリがあります。事前に登山する山域の地図をダウンロードしておくと、オフライン状態でも使用できるアプリもあり、紙地図が読めない方でも現在位置を簡単に把握することができます。また、登山地図アプリを使っているスマートフォンは機内モードにせず、通信状態にして登山をし、バッテリー対策としてモバイルバッテリーを携行しましょう。通信状態のメリットとして、帰りを待つ家族などが登山中の位置を確認することができるので、安全登山のために活用してください。